

大型インゴット生産へ

大和合金、重工業向け

特殊銅合金メーカーの大和合金(本社=東京都板橋区、萩野源次郎社長)は容量5トの大型インゴットケースを新設する。2025年度中に完成、来年度から新たなケースを使って、鋳塊(インゴット)の生産を始める予定だ。重工業向けの大型部品の製造での活用を想定し、朝霞工場(埼玉県新座市)に設ける。導入に合わせてインゴットケースを吊り上げる大型クレーンを導入。建屋の補強工事も行い、設備投資額は総額で数億円程度となる。

朝霞工場にケース新設

インゴットケースは溶解炉から溶湯を流し込み、鋳塊を造る金型。

新設するケースは大型容量は従来比で2倍以上になる。溶解設備は朝霞工場にある容量3

トの炉2基を使う計画で、工場内には最大吊り上げ荷重15トの天井クレーンも設置する。設備の大型化でクレー

ンを設置する建屋への負担も大きくなるため、同工場の改修工事もある。柱の土台部分をコンクリートで補強するほか、レイアウトを変更する。さらに、三芳工場(埼玉県三芳町)の製品倉庫も大型鋳物を取り扱うクレーンを更新し、最大吊り上げ荷重を約4トと従来と比べて2倍近く引き上げる。



インゴットケース



大型取鍋

今回のインゴットケースの導入で大型製品の生産が可能となり、今後の受注機会の拡大につながる。すでに引き合いを受けており、「でいる」と話す。

萩野社長は「受注に向けた具体的な話が進んでいる」と話す。